

成果報告1

1. 学校名 和歌山市立和歌浦小学校

2. 活動テーマ 「干潟でワクワク ～アサリ姫プロジェクト～」

3. 実践の概要

和歌浦干潟のアサリ復活に向けて活動している団体の方と協力しながら、アサリを守る活動に児童自らが関わっていく活動をおこなう。和歌浦干潟に実際に行き、生態観察や調査等を通し、和歌浦干潟を知る。その中で出てくる児童の疑問や課題を学習につなげながら、干潟のアサリを守る活動（なよ竹部屋作り・地域発信）をおこなっていく。

(ねらい)

和歌浦干潟に関わる活動を軸とし、調べ活動、調査活動、体験的な活動、発信活動を通して、干潟の良さや問題を知り、主体的に干潟に関わろうとする態度を養う。

4. 実践計画

①テーマ・概要・活動計画・教科等との関連

テーマ	和歌浦干潟と関わり、あさりを守る活動に関わる
概要	和歌浦干潟のアサリ復活に向けて活動している団体の方と協力しながら、アサリを守る活動に児童自らが関わっていく活動をおこなう。和歌浦干潟に実際に行き、生態観察や調査等を通し、和歌浦干潟を知る。その中で出てくる児童の疑問や課題を学習につなげながら、干潟のアサリを守る活動（なよ竹部屋作り・地域発信）をおこなっていく。
活動計画	(4月) 和歌浦干潟に関するアンケート アサリ生態観察への協力 学習計画の決定 (5月・6月) 和歌浦干潟を知るための活動（ゲストティーチャーとの授業・干潟観察会・調べ活動） (7月) 和歌浦干潟新聞の作成 稚魚放流 (9月) 和歌浦干潟新聞発表会 ゲストティーチャーとの授業 (10月) 和歌浦干潟観察会 (11・12月) アサリを守るための活動を考えよう (1月) ゲストティーチャーとの授業 なよ竹部屋作り

	(2月・3月) 発信について考えよう 参観発表 地域発信 まとめ
教科等との関連	特活…稚魚放流

②実践の評価について

- 和歌浦干潟について、興味や関心をもつことができる (関心・意欲・態度)
- 和歌浦の地域性だけでなく、人々の思いにも触れ、理解することができる (知識・理解)
- 自分たちにできることをすすんで考え、計画をまとめ、行動することができる (技能)
- 話し合いを通して、自分の考えを伝えたり、相手の考えに共感、批評したりできる (表現)

5. 今年度の実践

①計画からの追加・変更点

特になし

②実践の成果

児童の和歌浦干潟に対する見方や思いが大きく変わった。「干潟が朝、海みたいになってたで」「昨日行って、ハクセンシオマネキ見つけた」などと、和歌浦干潟に関する言葉や行動が、日常でも児童から自然と表れるようになった。自主的に干潟の状況を調べてくる子、何気ないときに干潟の様子を話してくる子等様々である。また、この学習を機に、地域の恵まれた自然に目を向けることも多くなり、特に海の恩恵を大きく受けている地域であるという自負がより濃く表れているように感じる。そして何より、和歌浦干潟が抱えていた「アサリ減少による潮干狩り閉鎖問題」について、その理由や復活に向けて多くの人が動いている事実を学んだ事、また、そこに向けて自分たちも関わっていきたく願う気持ちをもてたこと、そして、実際に自分たちの考えを活動にうつしたことが、大きな成果であったと考える。

③次年度への課題

この活動が1年単位で終わるのではなく、継続した取り組みを続けていくことが重要である。そのため、関係機関との連携を今後も続け、今年度の活動を次年度へも学校全体に引き継ぎ、授業の中で少しでも組み込んで取り組んでいけるようにしたい。また、実際に自分たちで考えた活動を実行していく取り組みを通し、自分たちも地域の一員であるという意識を高め、和歌浦のもつ素晴らしい海や自然を愛する心がより一層育つように支援していきたい。

6. 主な連携機関及び内容

- 和歌浦漁協…稚魚放流
- 海辺の教室…座学 干潟観察会 なよ竹部屋作り

3年生 総合的な学習の時間「干潟でワクワク ～アサリ姫プロジェクト～」

【実践のねらい】

地域の宝である和歌浦干潟にかかわる活動を軸とし、調べ活動、調査活動を通し、和歌浦干潟についての確かな知識・理解をつけさせる。豊かな和歌浦の自然について知り、地域に対する愛情や誇りを持たせる。和歌浦干潟復活に向けて、たくさんの人が取り組んでいる事実を知り、自分たちも何かかかわっていかうという気持ちを持ちながら、主体的に学び、実践する態度を育てる。実践的、体験的な活動を通して子どもの理解を深められるように、ゲストティーチャーや関係機関と連携を取りながら、干潟の生物 調査活動、稚魚放流体験等を取り入れる。

【主な連携期間と内容】

- ・和歌浦漁協：稚魚放流体験
- ・海辺の教室：座学 干潟観察

○時数 4月～3月 72時間（総合70時間 特活2時間）

○関連 特活

- 目標
- (1) 和歌浦干潟に関わる活動を通し、和歌浦干潟に対する確かな知識や理解を深める事ができる。
 - (2) 和歌浦干潟の良さや抱える問題について真剣に考え、自分達も関わっていかうとする意欲や態度をもち、主体的に取り組む事ができる。
 - (3) 和歌浦干潟の存在を通し、海による恩恵の大きな和歌浦地区の素晴らしさを実感し、地域を愛し、自分達の手で守っていかうとする態度をもつことができる。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
	《和歌浦干潟を知る》				《計画する》				《実行する》					
体験的な活動	① あさり生態観察への協力(4)総合 ・和歌浦干潟についてアンケートをとり、干潟にすむあさりの生態調査に協力する。 ・潮干狩りは知らない。・復活したらしたいな。				④ 稚魚放流(2) 特活 漁協の方の取り組みに協力し、海の保全について考える。		②和歌浦干潟へ行こう(6)総合 ・ゲストティーチャーをむかえ、座学や2回目の干潟観察に行く。 ・以前とはまた違う生物もいるね。 ・調べた事と同じような良さがあるね。 ・あさがりが少ないのはなぜだろう？				①あさり復活プロジェクト を実行しよう(10)総合 ・計画に沿って準備したことや、いろいろな人の手を借りながら、実行する。 ・なよ竹部屋というものを教えてもらって作ろう。 ・漁協の人にも協力してもらおう。			
探究的な活動	②和歌浦干潟を知ろう(8)総合 ・ゲストティーチャーをむかえ、干潟のことを学び、観察会に行く。 ・干潟にはいろいろな生物がいるな。 ・あさがり採れなくなった問題がわかった。				③和歌浦干潟あさり復活プロジェクト(20)総合 ・干潟にすむあさりの復活に向けて、自分達にできる事はないか考え、計画する。 ・いくつかのグループに分けて考えよう。				②取り組みを発信しよう(10)総合 ・これまでの取り組みを、地域等へ発信する。 ・新聞にまとめて発表しよう。 ・地域の人が集まりそうな所へ行って、ポスターにまとめたものを貼らせてもらおう。					
表現活動	③和歌浦干潟新聞を作ろう(8)総合 ・和歌浦干潟について知った事や知りたい事等を、調べ活動などからまとめ、新聞にまとめる。 ・干潟にもう一度行って、調べよう。 ・干潟の良さだけでなく、問題もまとめよう。				①和歌浦干潟新聞を発表しよう(4)総合 ・作った新聞を発表し、学級で共有する。 ・こんなこともあったのか。 ・自分達でしらべたのとは、また、見方が違うな。									

